



ビデオ会議アプリを通じ、ごみ焼却場を見学する児童たち＝五泉市の村松小

中継でも「工程分かった」

オンラインで焼却場見学

五泉・村松小

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、五泉市の村松小学校の児童が、オンラインで市内のごみ焼却場を見学した。オンラインによる社会科見学は同校初の試みで、4年生約60人が興味津々の様子で授業に臨んだ。同小は「大勢では行けないような場所も中継できる。子どもたちも集中して取り組んでくれた」としている。

同校は、バス移動を伴う社会科見学は、児童が密集するリスクが高いと判断。児童が学校にいなから見学ができるよう企画した。

13日は、五泉地域衛生施設組合のごみ焼却場（同市論瀨）をオンラインで見学。教員が現地にタブレットを持参し、ビデオ会議アプリを使って教室のテレビに中継した。

教員は職員に質問したり、ごみをクレーンで収集する様子を映し出したりしながら、ごみが灰になるまでの流れを説明。実際にごみが燃えている映像に、児童は「すごい」と声を上げていた。灰となったごみの埋め立て地が限られていることを教わり、各自がごみを出し過ぎないように努力する大切さも学んだ。

高岡玲来さん（9）は「とても楽しかったし、分かりやすかった。ごみのことや（施設内の）機械についても知ることができた」と話した。

担当の大湊拓朗教諭は、オンラインでの社会科見学について「集団で行かなくても学校内で疑似体験ができる。画面を通じ、全員に同じ映像を見せることができるので伝わりやすい」とメ

リットを語った。一方、その場に行かないと分からないような臨場感の伝え方は、今後の課題だという。

同小は中継した動画を録画しており、復習時に活用する。授業の一環でアメリカと中継し、同小に勤務する外国語指導助手（ALT）の家族との交流会も開く予定だ。